**第4学年１組　国語科学習指導案**

**１　単元名・教材名**　詩を楽しもう　のはらうた

**２　本時の学習指導**

（１）目標

　〇詩の表現から想像力を働かせ、詩に関する諸情報を導き出そうとしている。

（関心・意欲・態度）

　〇詩を読み、まとめる中で、自分の考えを明確にすることができる。

（読むこと）

（２）評価規準（1時間の授業に即した具体的なもの）

|  |
| --- |
| ア　国語への関心・意欲・態度 |
| 1. 詩に触れ、その表現から想像力を働かせ、詩に関する諸情報を導き出そうとしている。 |
| エ　読む能力 |
| 1. 詩を読み、まとめる中で、自分の考えを明確にしている。 |

（３）展開(〇は指導上の留意点、　　　は評価を表す)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | 指導と評価の創意工夫 | 時間 |
| １知っている詩を発表する。  ２本時のめあてを確認する。  野原の仲間たちが見ていることや考えていることを、詩から想像し、表現してみよう。  ３「のはらうた」の各詩を読む。  ４考えを発表する。  ５本時のまとめを行う。  ６次時の学習内容を伝える。 | ・既存知識の確認。  ・本時のめあて。  ・「のはらうた」の各詩には様々な表現や情景が取り込まれていること。  ・四つの詩について、上記五点をノートに記入することができている。  ・四つの詩について、上記五点をノートに記入することができている児童には、上記五点以外に自分が感じ取ったことを自由に記述するように指導することで、発展的な学習に向けた態度や技能を形成することができるようにする。  ・四つの詩について、上記五点をノートに記入することができていない児童には、詩の内容を児童の日常的な行動等から連想するように指導し、上記五点をノートに記入することができるようにする。  ・詩を読み、まとめる中で自分の考えを明確にすることができている。  ・詩を読み、まとめる中で自分の考えを明確にすることができている児童には、「自分が詩の作者だったら」というお題を与えることで、詩の表現を変えて自分なりの表現を生み出すことができるようにする。  ・詩を読み、まとめる中で自分の考えを明確にすることができていない児童には、詩の中の特定の表現に着目するように指導することで見る部分を狭くし、自分なりの考えを持ちやすいようにする。  ア①　詩に触れ、その表現から想像力を働かせ、詩に関する諸情報を導き出そうとしている。  エ①　詩を読み、まとめる中で自分の考えを明確にすることができている。  ・読み手によって詩の解釈が異なること。  ・本時のまとめ。  ・次時の見通し | 〇印象に残っている表現を発表できるようにする。詩の題名や作者も可能であれば、それも発表できるように促す（挙手制）。  〇本時のめあてをノートに書くように促す。  〇「野原の仲間」はどんな生き物が想像できるか問いかける。  〇「のはらうた」の各詩を川ごとに音読をするように促す。  〇「のはらうた」の各詩について、まず以下の五点を考えるように促す。また、考えたことをノートに記入するように促す。  ・「いつ」  ・「どこで」  ・「どんなことを考えているのか」  ・「何を見ているのか」  ・「何を聞いているのか」  〇「のはらうた」の各詩について、上記五点を中心に、それぞれが考えたことを全員で共有できるように、黒板に書くように促す。その際、前から二列ごとに児童を誘導し、黒板の前が混乱しないように配慮する。  〇本時のまとめをノートに書くように促す。  詩にはさまざまな表現が取り込まれており、読み手によって異なったとらえ方をすることができる。  〇「のはらうた」の各詩の音読をするように促す（挙手制）。  〇次時の授業の中で実際に詩をつくることを伝える。 | ５  ５  ３０  ５ |

|  |  |
| --- | --- |
| 次時の学習内容 | 本時で学習した詩の表現等をもとに、実際に自分で詩をつくる。 |

**３　備考**　在籍児童数　35名

**４　板書計画**

一月一九日

野原の仲間たちが見ていることや考えていることを、詩から想像し、表現してみよう

詩にはさまざまな表現が取り込まれており、読み手によって異なったとらえ方をすることができる。

はしる

はなひらく

ひかりと　やみ

しんぴんのあさ